

日本鳥学会 2003 年度大会プログラム

会期： 9月19日（金）各種委員会、評議員会、自由集会
 9月20日（土）口頭発表、ポスター発表、自由集会
 9月21日（日）ポスター発表、総会、シンポジウム、懇親会
 9月22日（月）口頭発表、自由集会

会場： 弘前大学文京キャンパス（〒036-8560 弘前市文京町1）
 口頭発表：教育学部
 ポスター発表：ポスタートーク…教育学部
 ポスター展示…大学会館（3階 大集会室）
 自由集会：教育学部
 シンポジウム・総会：総合教育棟 4F 401 講義室
 懇親会：大学会館1階学生食堂
 各種委員会および評議員会：教育学部

日程：

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20 (時)
1日目 9月19日 (金)	各種委員会および評議員会			各種委員会および評議員会						自由集会		
2日目 9月20日 (土)	口頭発表			ポスター トーク		ポスター発表		自由集会				
3日目 9月21日 (日)	ポスター発表			総会		シンポジウム		懇親会				
4日目 9月22日 (月)	口頭発表			自由集会								

受付とクローク

受付は、19日には16:00から教育学部の正面玄関で、20日と22日は8:30から同じく教育学部正面玄関で行います。21日は9:00から行いますが、場所は大学会館の入口です。受付時に名札をお渡ししますので、大会期間中は着用をお願いします。クロークは20日と21日は8:30から18:00まで、22日は8:30から13:30まで、教育学部に設けてありますのでご利用ください。自由集会と懇親会にはクロークの荷物を引き取ってからご参加ください。

口頭発表

発表時間12分、質疑応答2分30秒を厳守してください。発表開始後10分で予鈴、12分で2鈴、14分30秒で終鈴を鳴らします。発表はOHPに限り、操作は演者自身にお願いいたします。発表された方は次の講演の座長をお願いします。もしご都合がつかない場合には、あらかじめ事務局までご連絡ください。

ポスター発表

ポスター用ボードの大きさは、横が90cm、縦が210cmですが、上下左右に適切なマージンをとってください。特に、あまり低い位置に書かれたものは読みにくくなりますのでご注意ください。ポスター番号は、事務局で作成したものをボードに添付してあります。最上段にはタイトルと発表者氏名・所属を入れてください。また、貼り付けに使用する画鋏などはこちらで用意しますのでご利用ください。

ポスターセッションは、すでに案内でお知らせしたように、9月20日（土）午後と21日（日）午前との2回、設けてあります。両日を通して展示されて結構です。発表者は指定された日程に、少なくとも1時間は、ポスターの前に立って解説するようにしてください。ポスター会場にメモ用紙を用意しておきますので、「〇〇日の〇〇時から××時まで発表者がここにて解説する」という内容のメモ書きをポスターの片隅に貼り付けてください。なお大会事務局では混雑を避けるため、原則として、ポスター番号が偶数の方は20日、奇数の方は21日にボード前での解説をお願いしたいと思います。

ポスターは20日の午前9時からボードに貼ることができます。21日は遅くとも午後の1時までに片付けてください。

なお、20日のポスターセッションの始まりに先立って、ポスタートークの時間を設けています。これはOHPを使った2分間の口頭での宣伝で、13:30からA会場で行います。

自由集会

自由集会は19日（金）の18:00から20:00、20日（土）の17:00から19:00、22日（月）の13:30から15:30に、教育学部の各教室で行われます。各会場にはOHPを用意してあります。自由集会の会場運営・後片付けは、主催者の責任で行ってください。

総会

総会は 21 日（日）の 12:45 から 14:45 に、総合教育棟 4F 401 で行われます。学会員の方は極力ご出席ください。

シンポジウム

シンポジウムは 21 日（日）の 15:00 から 17:00、総会に引き続き同じく総合教育棟 4F 401 で行われます。

魚食性鳥類の食性と採食行動：その変異を探る

オーガナイザー 亀田佳代子・佐原雄二・綿貫豊

S1 海洋環境の変動性と海鳥の採食場所の個体変異

綿貫豊（北大水産）

S2 カワウの食性と採食場所選択の種内変異

亀田佳代子（琵琶湖博）

S3 サギ類、主にゴイサギにおけるエサ場利用のあり方の個体レベルでの解明

遠藤菜緒子（立教大院・理）

S4 ペンギンにおける採食行動の個体変異と繁殖成績

高橋晃周（極地研）

コメント 藤岡正博（中央農研・鳥獣害研）

昼食

20 日から 22 日の間、予約者に対して弁当を配布しています。受付の付近に引渡し場所をおきますので、11:30 頃からお受け取りください。20 日と 22 日は教育学部正面玄関、21 日は大学会館入口です。

(問い合わせ先)

〒036-8561 青森県弘前市文京町 3

弘前大学 農学生命科学部 生物生産科学科 動物生態学研究室

日本鳥学会 2003 年度大会事務局

大会会長 佐原雄二 gobius@cc.hirosaki-u.ac.jp TEL/FAX 0172-39-3950

事務局長 東 信行 azuma@cc.hirosaki-u.ac.jp TEL/FAX 0172-39-3824

実行委員（会計）黒尾正樹 kuroo@mb.infoamori.ne.jp TEL 0172-39-3591

大会会期中の緊急連絡先（緊急時以外の連絡は御遠慮下さい）

090-6223-7899、090-8926-8035

口頭発表

9月20日(土) A会場：教育学部2F 207講義室

A会場	演題番号	演 題(○：演者)
9:15	A-1-1	ビデオ解析により明らかになったハチクマの繁殖生態 ○中村浩志(信大・教育・生態)
9:30	A-1-2	オオタカはなぜ農耕地帯に生息できるのか？ ○工藤琢磨・尾崎研一・鷹尾元(森林総研・北海道), 酒井智丈(EFP)
9:45	A-1-3	広域を対象とするロジスティック回帰モデルを用いた営巣地予測によりオオタカ地域個体群を保全する ○関谷義男・関島恒夫(新潟大院・自然科学), 林聖元(パスコ), 大石麻美・布野隆之・石庭寛子・西村麻利子(新潟大院・自然科学), 山賀由貴・阿部學(日本猛禽類研究機構)
10:00	A-1-4	里山環境における人間活動と猛禽類の生態との関わり ○大森慎也(信大・教育・生態), 堀田昌伸(長野県自然保護研究所), 濱利幸・中村浩志(信大・教育・生態), 百瀬浩(国土技術政策総合研究所)
10:15	A-1-5	巣内に運び込まれたフクロウの餌動物 ○樋口亜紀・伊野良夫(早稲田大・教育・生物)
10:30	A-1-6	繁殖期におけるサシバの採食地利用変化とその要因 ○東淳樹(岩手大・農), 時田賢一(我孫子市鳥の博物館)
10:45	A-1-7	ラジオテレメトリーによるサシバ(<i>Butastur indicus</i>)の行動圏と土地利用様式の解明 ○濱利幸(信州大・教育・生態研), 堀田昌伸(自然保護研), 中村浩志(信州大・教育・生態研), 百瀬浩(国土技術政策総合研究所)
11:00	A-1-8	サシバの渡り衛星追跡、その3 春秋の渡り ○樋口広芳・森下英美子(東大・農・生物多様性), 時田賢一(我孫子市鳥の博物館), 内田聖(里山自然史研), 田村正行(国立環境研・情報解析)
11:15	A-1-9	東アジアにおけるタンチョウの渡り ○森下英美子・樋口広芳(東大・農・生物多様性), M. Nagendran(UC Davis, USA), Y. Darman(WWF Russia), V. Andronov・M. Parilov(Khingansky NR, Russia), O. Goroshko(Daurskiy NR, Russia), 田村正行(国環研・情報解析)
11:30	A-1-10	ミトコンドリアDNAコントロール領域をもちいたオオミズナギドリ <i>Calonectris leucomelas</i> の遺伝的構造の解析 ○馬場芳之(九州大・比文), 須川恒(龍谷大), 小池裕子(九州大・比文), 岡奈理子(山階鳥研)
11:45	A-1-11	長野県内に生息するカッコウのミトコンドリアDNAを用いた系統分析 ○片岡良介・中村浩志(信大・教育・生態)
12:00	A-1-12	韓国鬱陵島産ウチヤマセンニュウの特異な分子系統学的位置とその形態的特徴 ○西海功(国立科学博物館), 金昌會(韓国 国立環境研究院)

9月20日(土) B会場：教育学部1F 106講義室

B会場	演題番号	演 題(○：演者)
9:15	B-1-1	札幌周辺におけるシマアオジの生息状況 ○渡邊智子(くさはらネットワーク), 猿子正彦(日本野鳥の会・札幌支部), 竹中万紀子(北海道東海大・教育開発センター)
9:30	B-1-2	なぜオホーツク人はアホウドリを採取したのか？ ○江田真毅・樋口広芳(東大・農・生物多様性), 佐藤文男(山階鳥研・標識)
9:45	B-1-3	2003年晩春、日本で発生したハシボソミズナギドリの大量死 ○糟谷大河(筑波大・生物資源), 岡奈理子(山階鳥研)
10:00	B-1-4	西表島網取湾におけるベニアジサシの繁殖段階の移行と繁殖期中の成鳥数変化 ○河野裕美・水谷晃(東海大・沖縄地域研・海鳥研究チーム)
10:15	B-1-5	中国遼寧双台河口国家級自然保護区でのズグロカモメの繁殖状況の8年間の推移 ○武石全慈(北九州自然史歴史博), 岡部海都(九州環境管理協会), 尾崎清明(山階鳥研), 花輪伸一(WWF Japan), 李玉祥(双台河口自然保護区), 邱英杰(遼寧省林業庁), 侯韵秋(全国鳥類環志中心), 小野勇一(北九州自然史歴史博)
10:30	B-1-6	シギ・チドリ類の国内重要渡来地と渡来数の変遷 前川聡(WWF Japan)

- 10:45 B-1-7 カンムリウミスズメが繁殖する島の環境条件
武田恵世 (日本野鳥の会)
- 11:00 B-1-8 羽田で捕獲されたカモ類の微量元素蓄積
○宝来佐和子・渡邊泉・久野勝治・高田秀重 (東京農工大・農), 岩水良和 ((株)応用生物)
- 11:15 B-1-9 土浦市で異常死したオオハクチョウの微量元素蓄積 –鉛中毒の可能性–
○渡邊泉・宝来佐和子・久野勝治 (東京農工大・農), 及川ひろみ (穴塚の自然と歴史の会)
- 11:30 B-1-10 水鳥の排泄物の肥料的価値
○中村雅子 ((財)ホシザキグリーン), 香川裕之 (東北緑化(株))
- 11:45 B-1-11 オナガガモ雄化個体の性形質と下垂体・生殖腺系
○千葉晃 (日歯大・新潟歯), 酒井秀嗣・佐藤恵 (日大・歯), 本間隆平 (新潟県野鳥愛護会), 村田浩一 (日大・生物資源), 杉森文夫 (山階鳥研)

9月22日 (月) A会場：教育学部2F 207講義室

- A会場 演題番号 演 題 (○：演者)
- 9:00 A-2-1 都市域における鳥類保全を目的とした生態的ネットワーク構築のための基礎的研究
一ノ瀬友博 (姫路工業大・自然・環境科学研究所)
- 9:15 A-2-2 ミゾゴイの数を数えたことのある人は今までいないでしょう
○川上和人 (森林総研), 内田博 (比企ワシタカ研究会), 藤田祐樹 (東大・農・生物多様性), 中谷聡 (アルスコンサルティング), 本間勝美 (森の都愛鳥会)
- 9:30 A-2-3 オオクチバス急増にともなう魚類、二枚貝群集の変化が水鳥群集に与えた影響
○嶋田哲郎・進東健太郎 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団), 高橋清孝 (宮城県内水面水産試験場), 渡部正弘 (宮城県保健環境センター), アロン・ポーマン (ミネソタ大)
- 9:45 A-2-4 カイツブリの繁殖と溜池の魚類相
○足立友克・佐原雄二 (弘前大院・農生)
- 10:00 A-2-5 三宅島における希少鳥類の噴火前後の個体数
○藤田薫・富岡辰先・山本裕 (日本野鳥の会・サンクチュアリ室), 樋口広芳 (東大・農・生物多様性)
- 10:15 A-2-6 2000年噴火から3年を経た三宅島の鳥類
○加藤和弘 (東大・農・緑地植物実験所), 樋口広芳 (東大・農・生物多様性)
- 10:30 A-2-7 利根川下流域において野焼きが湿地性鳥類群集に与えた影響
永田尚志 (国立環境研・生物多様性研究プロジェクト)
- 10:45 A-2-8 2002年から日本に滞在しているコウノトリの移動と生息環境
○大迫義人 (姫工大・自然研), 三橋陽子・佐藤稔 (コウノトリの郷公園), 池田啓 (姫工大・自然研)
- 11:00 A-2-9 二次樹洞利用種によるアカゲラの子巣利用の季節変異
松岡茂 (森林総研・北海道)
- 11:15 A-2-10 スズメにおける木登り運動の研究
○藤田祐樹 (東大院・農・生物多様性)
- 11:30 A-2-11 インコ目における特殊な頭部構造の進化
土岐田昌和 (京大院・理・動物)
- 11:45 A-2-12 奄美・沖縄諸島産ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* の形態形質に見られる著しい地理的変異
○山崎剛史 (京大・理・動), 柿澤亮三 (山階鳥研)
- 12:00 A-2-13 春ねぐらに集結するハシボソガラスは若鳥か、成鳥か?
○中村雅彦 (上越教育大・生物), 村山諭 (北海道岩見沢市立東小)

9月22日 (月) B会場：教育学部1F 106講義室

- B会場 演題番号 演 題 (○：演者)
- 9:00 B-2-1 育児寄生者の卵擬態を進化させる要因—数理モデルによる検証— 宿主の卵認識排除vs寄生者同士の競争
高須夫悟 (奈良女子大・理)
- 9:15 B-2-2 一夫一妻制鳥類マダガスカルサンコウチョウの両親による子の世話—雄の羽衣の色彩・形態が育雛行動に与える影響—

- 水田拓 (東邦大・理・生物)
- 9:30 B-2-3 ルリビタキの羽色二型は雌に対する信号か？それとも雄に対する信号か？
○森本元 (立教大院・理), 上田恵介 (立教大・理・生命)
- 9:45 B-2-4 コヨシキリのつがい外受精：父性を得るオスと失うオスのstatus及びつがい相手の繁殖ステージ
○濱尾章二 (国立科博・自然教育園), 齋藤大地 (東大・総合文化)
- 10:00 B-2-5 モズ・アカモズ・オナガの3種の宿主におけるカッコウの抱卵日数、巣の独占までの日数と育雛日数の比較
今西貞夫 (山階鳥研)
- 10:15 B-2-6 コハクチョウの食圧が、マコモ及びマコモ群落に与える影響
渡辺朝一
- 10:30 B-2-7 ノグチゲラ *Sapheopipo noguchii* の性的二型と雛への給餌物にみられる性差
○小高信彦 (環境省やんばる野生生物保護センター), 金城道男・渡久地豊 (沖縄フィールドワーク), 尾崎清明 (山階鳥研)
- 10:45 B-2-8 ハシトガラスの採餌行動への群れサイズの影響
松本健児 (九大・理・生物), ○江口和洋 (九大院・理・生物)
- 11:00 B-2-9 ホシガラス *Nucifraga caryocatactes* のハイマツ種子貯蔵行動
○中村怜子・中村浩志 (信大・教育・生態)
- 11:15 B-2-10 ヤブツバキの開花数とメジロの訪花行動の関係
○国武陽子・樋口広芳 (東大院・農), 長谷川雅美 (東邦大・理)
- 11:30 B-2-11 円山川下流域におけるサギ類餌場の季節変化
○中島拓 (総合科学(株)), 中上喜史 ((株)ニュージェック), 江崎保男 (姫路工業大), 橋口大介 ((株)野生生物保全研究所), 大迫義人 (姫路工業大)
- 12:00 B-2-12 カワウの食性と採餌場所選択の種内変異
○亀田佳代子・高橋鉄美 (琵琶湖博), 川村めぐみ (近畿大・農)
- 12:15 B-2-13 コロニーの生態的状況の変化によるカワウの繁殖成績への影響
福田道雄 (東京都葛西臨海水族園)

ポスターセッション

9月20日(土) 14:30-17:00 : 奇数番号

9月21日(日) 9:30-12:00 : 偶数番号

会場: 大学会館3F 大集会室

※ポスターは両日とも展示しますが、セッションは2日間に分けて行いますので、御注意下さい。

- P-01 繁殖期におけるサシバ (*Butastur indicus*)の食物および採餌場所の季節変化
○酒井すみれ(東大・生物多様性), 安田雅俊(森林総研・鳥獣生産), 野中純(日本野鳥の会・栃木), 百瀬浩(国総研・緑化生態), 藤田剛・樋口広芳(東大・生物多様性)
- P-02 協同繁殖するアカオオハシモズにおけるステロイドホルモンと社会的地位
○小藤弘美(京大・生態研), 酒井秀嗣・佐藤恵(日大・歯・生物), 江口和洋(九大院・理・生物科学), 山岸哲(山階鳥研), 藤原昇(九大院・農)
- P-03 人工林伐採跡地の植生回復に鳥類がどう関わるか -伐採跡地と壮齢人工林における果実食鳥類相-
○佐藤重穂・酒井敦(森林総研・四国), 濱田哲暁・岩岡猛(東洋電化工業)
- P-04 コシジロヤマドリの分布域について
○川路則友(森林総研), 坂梨仁彦(熊本県), 時田賢一(我孫子市鳥の博物館)
- P-05 南極シグニー島におけるアゴヒゲペンギンの採餌戦略: データロガーを用いて捕食動物と餌生物・海洋環境の関係を探る
○高橋晃周(英国南極調査局, 国立極地研), Mike Dunn・Phil Trathan(英国南極調査局), 佐藤克文・内藤靖彦(国立極地研), John Croxall(英国南極調査局)
- P-06 札幌市北海道大学周辺におけるカラス類の繁殖状況
小林和也・佐藤瑛子・徳永珠未・○松尾太郎(北大・野鳥研), 黒沢令子(北大・低温研・生物多様性)
- P-07 オオジシギの配偶システム
○重盛究・中村雅彦(上越教育大・生物)
- P-08 親鳥が手乗りで育ててくれるセキセイインコの育雛の観察
○七瀬武((資)特許翻訳), 上田恵介(立教大・理・動物生態)
- P-09 西表島におけるカンムリワシ観察数の季節変動(予報)
○菊池正太郎(琉球大院・理工), 伊澤雅子(琉球大・理)
- P-10 神奈川県西部におけるガビチョウの生息状況
加藤ゆき(神奈川県立生命の星・地球博)
- P-11 圃場整備におけるカモ科鳥類の飛来数変化の予測 ~島根県安来市安来平野におけるコハクチョウでの試み~
神谷要((財)中海水鳥国際交流基金財団)
- P-12 ミサゴ *Pandion haliaetus* の食性
馬場智子(香川大院・教育・理科教育)
- P-13 ハシブトガラス精巣の季節変動に関する調査
○祝暁波・渡邊潤・青山真人・杉田昭栄(宇都宮大・農・動物機能形態)
- P-14 ハシブトガラスにおける地鳴きの解析と分類
○塚原直樹・青山真人・杉田昭栄(宇都宮大・農・動物機能形態)
- P-15 ハシブトガラスの味覚試験と口腔組織観察
○山崎智亨・渡邊潤・青山真人・杉田昭栄(宇都宮大・農・動物機能形態)
- P-16 ハシブトガラスと他種の鳥類における脳の比較研究
○村賀裕史・青山真人・杉田昭栄(宇都宮大院・農・動物機能形態)
- P-17 マガモ羽装アヒルを用いた羽装の変化に関する研究 - α -メラニン細胞刺激ホルモンを中心とした季節的調査-
○渡邊潤(東京農工大院連合・農, 宇都宮大・農・動物機能形態), 今井真智子・青山真人・杉田昭栄(宇都宮大・農・動物機能形態)

- P-18 樹洞性鳥類が利用する営巣木の特徴
雲野明 (北海道林業試)
- P-19 繁殖期におけるカイツブリの採餌生態
○佐原雄二・足立友克 (弘前大院・農学生命)
- P-20 埼玉県中央部の丘陵地でのホトトギスのウグイスへの托卵率と、社会構造へのアプローチ
内田博 (埼玉県)
- P-21 ハシボソガラスとハシブトガラスの繁殖期における食性
○近藤太佳彦・Mark Brazil (酪農学園大・環境生態)
- P-22 ハシボソガラス *Corvus corone* とハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* の食性および消化酵素
鈴木雪絵 (元 山形大院・農・昆虫環境生理)
- P-23 ~
○佐藤太郎・奥山智子・東淳樹 (岩手大・農)
- P-24 採餌場におけるゴイサギの個体間相互作用
○加藤義之・佐原雄二 (弘前大院・農学生命)
- P-25 鹿児島県出水干拓とその周辺における鳥相
○小林千尋 (出水市ツル博), 加藤ゆき (神奈川県立生命の星・地球博), 樋渡清知, 宮崎泰子
- P-26 水鳥の高圧送電線衝突のメカニズムと衝突防止対策
○香川裕之・沢田隆・呉地正行 (日本雁を保護する会)
- P-27 ズグロカモメ集団の遺伝的構造
○天野一葉 (九大院・比較社会文化), 武石全慈 (北九州自然史歴史博), 李玉祥 (双台河口保護区), 邱英杰 (遼寧省林業庁)
- P-28 農村地域における繁殖期のカラス類 2 種の生息密度
吉田保志子 (中央農研・鳥獣害)
- P-29 イヌワシ育雛期における餌の重量と種構成の幅について
○竹内亨・梨本真・松木吏弓・阿部聖哉・石井孝 (電力中央研)
- P-30 耕作放棄率の異なる地域におけるサシバの生息密度と生息環境
○堀田昌伸 (長野県自然保護研), 中村浩志・濱利幸 (信州大・教育)
- P-31 親鳥のボディー・コンディションと卵サイズの関係
新妻靖章 (日本学術振興会)
- P-32 オナガガモの越冬期間における血中ホルモン濃度の変動
○酒井秀嗣・佐藤恵 (日大・歯・生物), 杉森文夫 (山階鳥研)
- P-33 都市近郊緑地におけるアオバズクの餌の好み
○橋本啓史・澤邦之・森本幸裕 (京大)
- P-34 マガンの糞密度は採食量の指標として利用できるのか?
○天野達也・藤田剛・樋口広芳 (東大・農・生物多様性)
- P-35 筑波山におけるソウシチョウと在来鳥類の食性
○東條一史 (森林総研), 中村秀哉 (常磐大)
- P-36 鳥がつなぐ森と海 ~アオサギの繁殖活動が林床の生物群集に及ぼす影響~
○上野裕介 (北大院・水産・多様性生物), 堀正和 (東大院・農・生物多様性), 野田隆史 (北大院・水産・多様性生物)
- P-37 ミトコンドリアDNAコントロール領域を指標としたアカヒゲ *Erithacus komadori* の遺伝的構造解析
○関伸一 (森林総研), 坂梨仁彦 (熊本県博プロジェクトチーム), 川路則友 (森林総研), 小高信彦 (環境省やんばる野生生物保護セ), 小倉豪
- P-38 ヒヨドリ個体群変動と液果の豊凶、コマツナへの被害の関係
山口恭弘 (中央農研・鳥獣害研)
- P-39 九十九里浜から鹿島灘および東京湾におけるミユビシギの分布

○奴賀俊光(千葉大・海洋セ), 桑原和之(千葉中央博), 田邊以久雄・箕輪義隆・綾富美子・泉宏子・本間征(千葉中央博友の会), Christopher Paul Norman (JST)

P-40 ジュウイチの雛による宿主操作: 翼角の機能

○田中啓太・森本元(立教大院・理・動物生態), 上田恵介(立教大・理・動物生態)

P-41 関東地方のカワウの季節移動 - ねぐら調査より -

○加藤ななえ・高木憲太郎・成末雅恵・福井和二(日本野鳥の会・自然保護室), 田中啓太(立教大)

P-42 東京の鳥類相の変化とその原因

○植田睦之(日本野鳥の会), 加藤和弘(東大・緑地植物実験所), 松野葉月(日本野鳥の会), 黒沢令子(北大・低温科学研・生物多様性), 成末雅恵(日本野鳥の会)

P-43 北海道東部中標津町における牧草地の鳥相変化

玉田克巳(北海道環境科学研究センター)

P-44 新潟市とその周辺で得られた野生鳥類の寄生蠕虫とマレック病ウイルスの予備調査について

中村茂・遠藤大二・吉野智生(酪農大・獣医), 佐藤準(新潟県愛鳥センター), 柳井徳麿(岐阜大・獣医), 千葉晃(日本歯大・生物), ○浅川満彦(酪農大・獣医)

P-45 岐阜市柳原家で見つかった折井彪二郎の書簡について

○説田健一(岐阜県博), 齋藤郁子(琉球大)

P-46 青森県仏沼におけるオオセッカ繁殖に及ぼす野焼きの影響

○宮彰男・蝦名純一・関下斉・向山満(NPOおおせっからんど)

P-47 岩木川下流部におけるオオセッカの生息と環境史について

○竹内健吾(弘前大院・地域社会研究科), 東信行(弘前大), 加藤小百合(白神山地ビジターセンター)

P-48 飼育下におけるエトピリカの育雛行動でみられた雌雄差(予報)

○濱外晴美(日本野鳥の会), 福田道雄(東京都葛西臨海水族園)

P-49 岩手県日出国におけるクロコシジロウミツバメの営巣地保全に向けての試み

佐藤文男・○鶴見みや古(山階鳥研)

P-50 落葉広葉樹の展葉はイヌワシの雛の生残に影響するか?

○布野隆之・眞保藍子(新潟大学・自然科学), 竹内享(電中研・応用生物部), 阿部學(日本猛禽類研究機構), 関島恒夫(新潟大学・自然科学)

P-51 繁殖開始時期によって卵の抜き取りに対する反応は異なるか?

○彦坂清子・高木昌興(大阪市大院・理)

P-52 飼育環境の違いにおけるミナミイワトビペンギン(*Eudyptes c. chrysocome*)の鳴音比較

○間部裕子(北大・動物生態), 小井土隆・竹村暁(長大・漁業科学)

P-53 千曲川中流域で繁殖する鳥類の営巣環境と行動圏

○笠原里恵・中村浩志(信州大・教育・生態研)

P-54 セキレイ類3種の棲み分けと行動圏の比較

○太田隆雄・中村浩志(信州大・教育・生態研)

P-55 沖縄島におけるタイワンシロガシラのなわばり性

平嶋雅子(野鳥の会・和歌山県支部)

P-56 繁殖地として農耕地域に進出したタンチョウは、採餌を人工環境に依存する

○大石麻美(新潟大院・自然科学), 小林清勇(タンチョウ保護調査連合), 関島恒夫(新潟大院・自然科学), 正富宏之(タンチョウ保護調査連合)

P-57 アオサギの営巣場所の選択性と繁殖成功率

○白井剛(東京都立大・理・動物生態)

P-58 鹿児島県北西部におけるヤイロチョウの繁殖行動

○溝口文男(下水流小学校), 加藤ゆき(神奈川県博), 重永明生(秦野市), 小林千尋(出水市ツル博)

P-59 択捉島沿岸におけるウミスズメ類の海上分布と海鳥の繁殖分布

福田佳弘(知床海鳥研究会)

P-60 冬季の島根県沿岸に見られるカモメ類の油汚染

- 森茂晃(ホシザキグリーン財団), 星野由美子(島根県立三瓶自然館)
- P-61 翼の成長はウトウのヒナの巣立ちを決める要因か?
- 野村浩子(酪農学園大), 出口智広(北大), M. A. Brazil(酪農学園大)
- P-62 豊岡盆地に飛来したコウノトリの行動範囲と利用場所
- 内藤和明・大迫義人・池田啓(姫路工大・自然研)
- P-63 イヌワシ幼鳥の巣外育雛期 特に巣立ち直後の生態について
- 根元理・西川和也((株)電源開発), 本田智明((株)電発環境緑化センター), 高橋誠(猛禽類保護センター), 竹内正人(新日本環境調査(株))
- P-64 津軽地方のリンゴ園に生息するフクロウ *Strix uralensis* の営巣場所と環境利用
- 稲田あや・東信行(弘前大院・農学生命)
- P-65 北海道帯広市におけるキツツキ類の樹洞の鳥獣類による利用
- 村木尚子・柳川久(帯広畜産大・野生動物管理)
- P-66 札幌圏におけるカラス類の冬期時の分布と生息数
- 竹中万紀子(北海道東海大教セ), 日本野鳥の会札幌支部
- P-67 カワウの衛星追跡
- 高木憲太郎・古南幸弘・加藤七枝(日本野鳥の会・自然保護室), 福田道雄(東京都葛西臨海水族園), 茂田良光(山階鳥研)
- P-68 鳥類繁殖分布の変化—環境省自然環境基礎調査の結果から
- 神山和夫・矢野正則・金井裕・植田睦之・成末雅恵(日本野鳥の会・自然保護室), 七目木修一(環境省生物多様性センター)
- P-69 蕪島のウミネコ個体群の年齢構成
- 成田章(青森県八戸聾学校), 成田憲一
- P-70 富山県西部におけるミサゴの繁殖状況と営巣場所
- 穴田哲(富山県動物生態研究会)
- P-71 Effects of Small Artificial Dams on the Distribution of Wintering Dabbling Ducks in terms of Freeze-thaw of Water in Tancheon Urban Stream, Republic of Korea
Forest Research Institute, Seoul), J. Choi (Dept. of Landscape Architecture, Kyungwon University, Seongnam City)
- P-72 マングローブ林と陸域森林という異なった環境を鳥類の混群はどのように利用しているか
- 片岡優子(立教大院・理・動物生態), 上田恵介(立教大・理・動物生態)
- P-73 大阪府岸和田市のため池群における水鳥の繁殖状況について
- 西中美穂(きしわだ自然資料館)
- P-74 都市における鳥類排泄物由来の窒素・リンの季節・空間分布
- 藤田素子・小池文人(横浜国立大院・環境情報学府)

※アンダーラインはポスタートークを希望されている発表です。

自由集会

9月19日 (金)18:00-20:00

- M1 A会場：教育学部207号室
田んぼで鳥の生態学 (第2回)
吉田保志子 (中央農研・鳥獣害)
- M2 B会場：教育学部106号室
集団営巣性サギ類の生息状況と人との関わり
松長克利 (北海道アオサギ研究会)

9月20日 (土)17:00-19:00

- M3 A会場：教育学部207号室
猛禽類の調査研究と保護の手法について考える [第6回目]
○飯田知彦 (広島クマタカ生態研究会), 竹中健 (シマフクロウ環境研究会), 須藤明子 (イーグレット・オフィス)
- M4 B会場：教育学部106号室
シマアオジ激減! -原因と対策は?-
竹中万紀子 (北海道東海大教セ)
- M5 C会場：教育学部102号室
これからの形態学
川上和人・川口敏・江田真毅・山崎剛史・藤田裕樹
- M6 D会場：教育学部202号室
日本における海鳥の現状と課題II
綿貫豊・河野裕美・長雄一・小野宏治 (日本海鳥グループ)
- M7 E会場：教育学部203号室
カワウを通して野生生物と人との共存を考える (その6) カワウと人との共存に向けた取り組み
須川恒 (龍谷大), 石田朗 (愛知県農業総合試), 亀田佳代子 (琵琶湖博)

9月22日 (月)13:30-15:30

- M8 A会場：教育学部207号室
里山に住む猛禽類の生態と保全 (第3回)
○中村浩志 (信大・教育・生態), 百瀬浩 (国土交通省・国土技術政策総合研・緑化生態)
- M9 B会場：教育学部106号室
極東におけるガン類・ハクチョウ類個体群フライウェイ解明のための課題
○神谷要・須川恒・宮林泰彦・島田哲郎
- M10 C会場：教育学部102号室
これからのコアジサシの保全研究 -これまでに分かったこととこれからの課題-
○藤田剛 (東大・農・生物多様性), 早川雅晴 (水鳥研究会)
- M11 D会場：教育学部202号室
動物はいつごろ採餌するのか -採餌時間帯の問題を考える-
佐原雄二 (弘前大学農学生命科学部)

